（別紙様４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

# 熊本農業高等学校　平成２８年度学校評価表

## １ 学校教育目標

「**敬天愛人**」の校訓のもと、人格の完成を図りながら、各地・各界で活躍できる人材の育成を目指す。また歴史と伝統を大切にした特色ある学校づくりに努める。

教育スローガン

**「 輝く理想を揚げ 尊き使命を果たすため 生徒をほめて伸ばす　南園教育 」**

**「 人間力を高め 一隅を照らす人づくり 熊農魂で名実ともに日本一 」**

## ２ 本年度の重点目標

教育とは流水に文字を書くようにはかない業である。しかし、それを岩壁に刻むような真剣さで取り組まなければならない。教育の基盤はあくまでも、教師と生徒との信頼関係である。教師が誠意と熱意を持って教育に真剣に打ち込むときに、生徒の心は動かされ、魂を呼びさまし、そこに信頼感が生まれる。

また、地域の人々に愛され、期待され、生徒が夢や目標を持ち、夢に挑戦することで、自分に対する自信と他者に対する思いやりの心を育成する学校づくりに努める。

**教育は人なり（３つの火を燃やそう）**

①一隅を照らす灯(教職員ひとり一人が個性と専門性を発揮し、さらに人間力を磨く。)
②石中の火(火打ち石から火花が散るように前例踏襲でなく果敢にチャレンジする。)
③燎原の火(教職員が仲良くスクラムを組んで野焼きの火のように協働する。)

**目指す生徒像・目指す教師像（５つの誓い）**

①口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
②耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。
③目は人の良いところを見つけるために使おう。
④手足は人を助けるために使おう。
⑤心は人の痛みがわかるために使おう。

**本校の役割としての「学校の目標」「生徒の目標」「教師の目標」の３つに区分する。**

学校の目標
①人材育成　②社会に貢献できる学校　③伝統を受け継ぎ、次の世代に

生徒の目標
①社会で生きていける力を身に付けよう！　②目標を高く、夢を実現する！
③心を込めて校歌を歌おう！

教師の目標
～くまもとの教職員像～『認め、ほめ、励まし、伸ばす』の教育指針のもと
①専門性の高い魅力的な教師　②進路保障１００％　③豊かな愛情と人権感覚

## ３ 自己評価総括表

| | 評価項目 | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校経営 | 学校目標の共有。 | 学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底。 | 教職員、生徒、保護者へ説明し、生徒95%、保護者90%の認知度へ高める。 | 職員会議、職員朝会、全校集会、学年集会、一斉ＨＲ、PTA総会、PTA新聞、地区懇談会等で趣旨を説明する。 | B | 学校行事や全校集会等で教育目標と重点目標は浸透している。HPや各広報誌への記載を年度当初だけではなく、年間を通じて実施する。 |
| 学力向上 | 家庭学習の習慣化。 | 家庭学習課題の与え方と取組み。 | ５教科を中心に、家庭学習用の課題配付を継続的に行う。 | ５教科で担当月を決めて、その月には日常的に家庭学習用プリントを配付する。 | B | 日常的・計画的に家庭学習の課題を配付している教科と、そうでない教科の差がある。 |
| | 学習内容の定着と基礎学力向上。 | 成績不振者の減少。 | 各考査の欠点者数・追試験該当者数を昨年度より20％減少させる。 | 公開・研究授業期間の設定や生徒による授業評価を実施し、授業方法のさらなる改善により学習への意欲と理解度を高める。 | A | 授業評価で評価の低かった「板書」について、全体の取り組みとして改善を図ることができた。 |

| | 評価項目 | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| キャリア教育・進路指導 | 系統的・計画的進路指導の充実。 | 系統的進路指導の実践と進路意識の向上進路情報の提供。 | 各種模擬試験受験と、卒業まで資格を３種以上取得させる。年３回以上の面談実施。３年１学期までに３回以上各種ガイダンスに参加させる。 | 各学年に応じた進路指導を徹底し、模擬試験・資格取得の受験を促す。２年次３学期までに三者面談や個人面談を行い第一志望候補を検討するなど家庭との連携や進路意識を高める。 | B | ２年生での３学期末面談と保護者学習会まで実施されたが、生徒と保護者の懇談の実効性に疑問が残る。進路希望調査も二回行ったが、ほぼ生徒任せの実態で、職業理解と人生設計上の進路選択について、保護者啓発に一層の取り組みが必要である。 |
| | キャリア教育の充実。 | 職業理解能力の向上と勤労観、職業観の育成。 | 各学年２回以上の進路講話を実施し、意識の高揚を図る。３月末の就職内定率100%を目指す。 | 卒業生や社会人講師による講演会を実施。進路情報の提供、現場実習・ボランティア活動を充実し、就職支援を行う。<br>早期離職対策としてｷｬﾘｱｻﾎﾟｰﾀｰからの講話・面談を利用する。 | B | １年生の総合学習を活用しての卒業生講話や２年生の職業分野毎の講話は計画通りに行われた。内定率 100 %も達成されたが進路変更に伴う辞退が生じた。<br>就職一年目の早期離職が十数件に上り、改善の兆しが見られない。 |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立。 | 爽やかな挨拶と礼法指導の徹底端正な服装指導の徹底時間厳守の指導徹底。 | 年間を通じ全職員での登校指導と生徒による挨拶運動を展開する。<br>服装･頭髪検査の実施と日常的指導を徹底する。<br>全職員による指導を徹底する。 | 生徒会、委員会等の生徒、職員による挨拶運動の実施。<br>入室時マナーの指導徹底。<br>職員全員がチェックカードを持ち、服装指導の徹底を図る。<br>毎日の学校生活で全職員が共通認識を持ち指導を徹底する。 | B | 職員、生徒会などの活動はよくできていた。ただ、本年度発覚したいじめ事案に対しての発見の遅さや、その後の対応に対して改善が必要。 |
| | 交通安全の推進。 | 交通安全モラルの確立と自転車二重ロックの徹底。<br>公共機関利用時のマナーの向上。 | 交通安全指導、交通講話、安全点検の実施。二重ロック率98%以上を目指す。列車補導等を定期的に実施する。 | 毎日の登校時に二重ロックの点検を実施。事故防止のための交通教室を年２回実施する。<br>全職員による登下校指導を実施する。 | B | 毎日の交通点検指導により、交通ルールの認識と交通マナーの向上を図った。さらに指導が必要な生徒を特定することができ、その生徒たちへの指導を充実させていきたい。 |
| 人権教育の推進 | 他者を思いやる人権感覚を持った生徒の育成。 | 人権教育の学習内容の充実と職員研修の充実。 | 各学年、年 3 回の人権教育ＬＨＲの実施校内職員研修の充実と校外研修への積極的参加を進める。 | 人権教育ＬＨＲの指導案作成、職員研修の内容等を人権教育委員会で企画、運営する。 | B | 各学年実施の人権教育ＬＨＲについては各学年担当の方と一緒に検討を進めていくことができたが、職員研修にの参加ついては多忙のため、皆さんの参加が難しいところがあった。 |
| | 「命の大切さ」を育む教育の推進。 | 自尊感情を高め、自他の命を大切にする生徒の育成。 | ホームルーム、全校集会等での指導の他に各教科、各分掌での取り組みを進める。 | 「平成２８年度人権教育の全体計画」に沿って各教科、分掌で取り組む。<br>人権教育委員会ではその内容の検証と指導を行う。 | B | 本年度に発生したいじめ事件に関連し、取り組みの浅さがあった。生徒、職員の理解を進めていく必要性がある。 |

| | 評価項目 | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| いじめの防止等 | いじめ防止に向けての取組強化。 | いじめを許さないクラス・学校づくり、生徒全員が安心して学べる環境づくりの実践。 | 担任を中心としたクラス生徒の情報収集の徹底と情報の職員全体の共有、問題解決のための組織運営に努める。 | 生徒一人一人の観察と個人面談等での情報収集に努め事実関係の把握に努める。情報共有に努め組織立った取組を実施する。 | C | 担任、副担や教科担当者がＨＲや授業での様子を観察出来ているクラスと出来ていないクラスがあった。情報収集の方法が十分ではなく、組織としての情報収集が鈍かった。 |
| | 早期対応による早期解決と予防。 | いじめ防止のための組織運営の強化及び早期問題解決と予防の強化。 | 年３回（6月,11月,2月）の心のアンケートを実施し、早期発見・解決と予防に努める。一斉HRや全校集会でのいじめ防止に関する講話等指導の徹底。 | 緊急を要する場合以外でも早期対応ができるよう組織立った取組の強化を図る。いじめ対策委員会を経て全職員への共通認識と対応の方向性を示し、解決と予防に努める。 | C | 心のアンケートは年３回実施したが、素直に答える(書く)ことが出来る環境づくりが作れてなかった。<br>緊急を要する場合での組織立っての対応が十分ではなかった。早期発見・解決に向けて全職員の研修を確実に行う必要がある。職員の力不足は否めない。 |
| 専門教育の推進 | 生徒が輝き活躍する農業クラブ活動の推進。 | 農業クラブ活動の充実。 | 各種競技会への積極的な参加と成績向上プロジェクト学習の推進。 | 地域連携、関係機関との連携、学科間連携を重視した活動を実践する。 | B | 農業クラブ全国大会鑑定競技において最優秀賞２名、優秀賞５名。九州大会において意見発表Ｉ類で最優秀賞を収めたがプロジェクト活動は県大会で優秀賞どまりであった。 |
| | 農業の良き理解者を増やすための地域貢献活動の推進。 | 農場教育を活かした地域貢献活動の強化 | 地域ボランテアの推進幼保小中校との連携強化地域イベントへの積極的参加。<br>学科の教育内容公開。 | 農業体験学習の実践。<br>地域イベントへの参加や農業高校フェアによる農業高校のアピール活動。マスコミへの情報発信。ホームページの充実。花一杯運動の推進。 | B | 地域との幼稚園・保育園との交流が活発に行えた。また、滞っていた小学校の体験学習を１校受入ができた。地域イベントには各学科の協力の下、積極的に参加できた。熊本地震の影響で人気の開放講座が実施できなかった。 |